

# みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 14 NO. 1

(通巻52号)

昭和62年4月20日発行

編集・発行人 藤川 昶

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311(代表)

## 梅原龍三郎

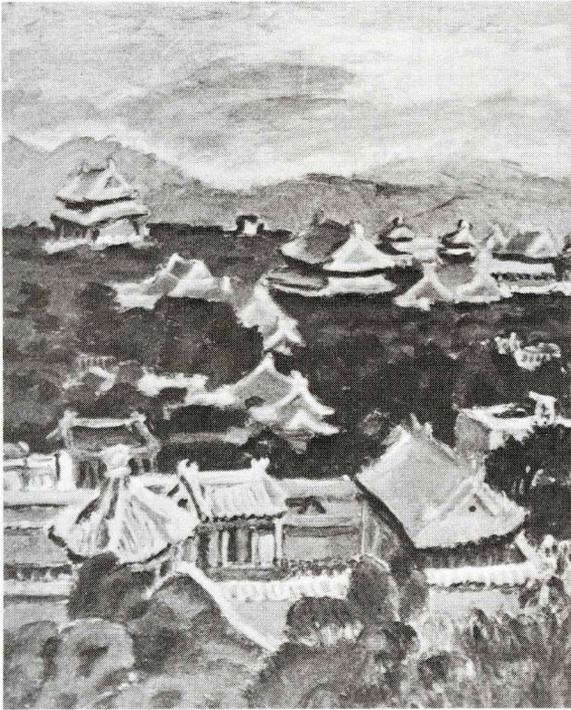
### 「紫禁城」

油彩・キャンバス 一九四二年作

(「日本の名画100年」出品・  
新潟県美術館蔵)

「現存の人で浅井忠の門下生は実に少数になった。私が日本で先生と考へ尊敬して今に敬愛の情を失わない唯一の人である。」とは満七十七歳の時の梅原龍三郎の言葉です。

安井曾太郎とともに京都時代の浅井に学んだ梅原龍三郎(一八八八〜一九八六)は、二十歳で渡仏。パリ



に着いた翌日リュクサンブール美術館でルノワールの作品を観て、その赤に感動し、翌年一九〇九年二月ルノワールを訪問、師弟の交りをもつ話は有名です。ルノワールから天性の色彩感覚のすばらしさを高く評価されました。しばらくはルノワールのな赤を身につけ仕事をしますが、そのことがやがて梅原を苦しめます。長与善郎に語った言葉です。「今まで人に話さなかったことだが私はルノワールにひんばんに会い、

ああいう立派な美術家の生活を知ることを得たのは非常に徳として、そのため無意識だが、自分に不自由なところを考へていく。合わない方がもつと存分に怖れなく伸びて行けたのではないかと内心思うことがよくある」とその心中を

吐露しています。自分の天分に忠実に「自ら成る」絵を描くためにルノワールの世界と決別し、伝統への回帰を示すのは三十二・三歳の二度目の渡仏以降のことです。ヨーロッパの女性でなく日本の裸婦を、日本の風景を追求し、日本画と洋画のエッセンスを統合し「日本の洋画」を確立した業績が梅原の九十七歳に及ぶ画業の華です。

この「紫禁城」は、梅原の「北京時代」の代表作の一つです。「桜島の時代」につづくこの一九三九年から四三年までの六回の北京滞在中には他に「雲中天壇」「長安街」「姑娘」「北京秋天」などを生み注目すべきエポックです。この「紫禁城」は五度目の北京滞在の秋の清々しい朝、ホテルから見下して描いたものです。城の黄赤色の屋根と朱の壁、杜の緑、明けゆく空の壮麗な景観を執拗に追求した作品です。

梅原の東洋への回帰には、京都で育った環境とともに日本での師浅井忠が、光悦、宗達の魅力や大津絵の面白さを愛し教えていたことも深いかわりがあるものとみられます。

県民の日記念事業

特別展

日本の名画一〇〇年

'87.5.16(土)~6.21(日)

新潟県美術館所蔵・旧大光コレクションより

序

日本における洋画・日本画は、明治、大正、昭和の激動を反映して、幾多の変遷を経してきました。

この時期の多様な作品を鑑賞する機会として、質量共に高く声価を得ている旧大光コレクションの優品を、現所蔵者である新潟県美術館の協力を得て企画・展覧し、併せてこれにより近代絵画の100年の流れの理解に資するものです。本展は、県が制定した6月



青木 繁「妙義山」

15日の「県民の日」の記念事業として実施します。

一、大光コレクション

大光コレクションの成立と新潟県美術館に所蔵されるようになった経緯を館長である菊地美秋氏は次のように記されています。

「昭和56年9月12日、当館の歴史に大きく書き込まなければならぬ画期的なことが起きた。全国屈指の美術コレクションと



浅井 忠「農人」

言われた『大光コレクション』を当館に収蔵する交渉が成立したのである。当時の各新聞にはこのニュースが競って報道され、改めて大光コレクションに関わる県民の関心と期待の大きさがうかがえるのである。

な風土が育っている町と言われている。長岡現代美術館の館長は、大光相互銀行の頭取、駒形十吉氏である。駒形氏は戦前から優れた美術コレクターとして著名であった。長岡現代美術館は、近代日本洋画の流れを示す作品群を中核に、

大光コレクションを語る時、昭和39年、長岡市に開館した財団法人長岡現代美術館について述べなければならない。長岡市は近代日本洋画の黎明期に活躍した小山正太郎の出身地でもあり昔から美術的

ワイエス、フォンタナ、イヴ・クライン等の世界の現代絵画、それに国内外の現代作家を対象にしての公開審査で多くの話題を呼んだ長岡現代美術館賞・受賞作品等で構成されていた。ところが、昭和53年その母体である大光相互銀行の乱脈融資事件が発覚し、このあたりで長岡現代美術館は解体した。そして大光相互銀行所有分の近代日本洋画を中心とした150点を新潟県が購入し、当館に収蔵されたのである。これが当館の『大光コレクション』である。」

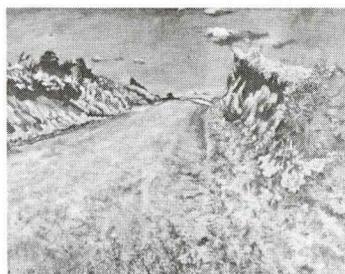
二、本展の内容

本展は、旧大光コレクションの内、洋画72点を中心に日本画7点を加えた79点で構成します。浮世絵版画を除き、同コレクションのほぼ全容を

紹介します。

洋画家49名は、本県ゆかりの浅井忠からはじまります。日本洋画の黎明期に活躍した浅井忠、小山正太郎。それを展開させた明治ロマン主義絵画の先駆者青木繁。大正期写真主義の岸田劉生。フランス印象派以後の個性的表現を強めた萬鉄五郎、小出橋重。天折の画家佐伯祐三、前田寛治。油絵を日本の風土に融合させた児島善三郎、須田国太郎。日本の近代洋画を完成へ導いた安井曾太郎、梅原龍三郎。大正期から前衛美術の旗手として活躍し抽象の先駆者となった坂田一男、吉原治良。戦後美術のバイオニア的存在となった齋藤義重、山口長男。さらにこれらの礎に今現在活躍している田渕安一、高橋秀などの作品を時代の流れに添って展示します。

また、日本画家4名についても本県在住の東山魁夷からはじまります。日本画の近代化に貢献し風格の高い風景画を追求している東山魁夷。幻想的な心象風景に故郷弘前への想いが重なる工藤甲人。古典技法を生かした装飾美の世



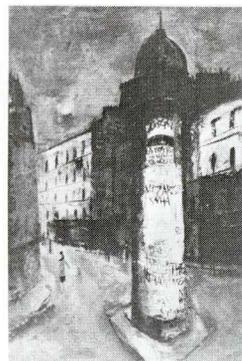
岸田劉生「冬枯れの道路」



安井曾太郎「読書」



小出橋重「ソファの裸体」(裸体のB)



佐伯祐三「広告塔」



脇田和「あらそい」



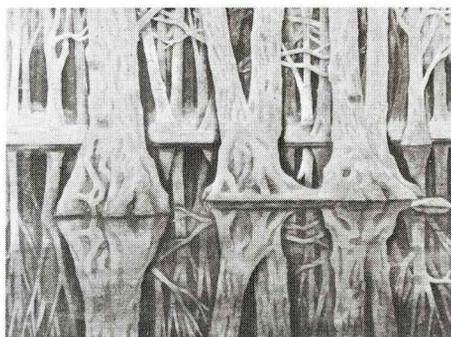
斎藤義重「やじろべえ」

界を展開する加山又造  
日本画の伝統を基礎に  
新しい解釈で近代的作  
風を追求する麻田鷹司  
の作品を展示します。  
このたびこれらの54  
作家による名画の数々  
を一堂に展覧しますの  
で、十分に鑑賞してい  
ただくと共に、伝統と  
創造による個性的な作  
品とのふれあいによつ  
て多様な近・現  
代美術の流れに  
ついて理解を深  
められる一助と  
なればと願って  
います。

三、出品作家

〈洋画〉

- 浅井 忠 小山正太郎
- 満谷国四郎 高村真夫
- 青木 繁 坂本繁二郎
- 萬鉄五郎 藤田嗣治
- 小出橋重 安井曾太郎



東山魁夷「森の静寂」

〈日本画〉

- 梅原龍三郎 坂田一男
- 地主悌助 高間惣七
- 牧野虎雄 長谷川利行
- 須田国太郎 岸田劉生
- 児島善三郎 北川民次
- 前田寛治 佐伯祐三
- 野間仁根 島海青児
- 山口長男 海老原喜之助
- 斎藤義重 吉原治良
- 難波田龍起 佐藤 敬
- 山口 薫 森 芳雄
- 脇田 和 中谷 泰
- 小野 末 高井貞二
- 川端 実 糸園和二郎
- オノサトシノブ
- 阿部展也 桂 ゆき
- 田中田鶴子 久野 真
- 田淵安一 元永定正
- 前田常作 金 昌烈
- 高橋 秀 季 禹煥

美術講演会

日時 5月23日(土)午後2時  
午後4時

演題 「旧大光コレクション  
と日本の名画」

講師 本間正義氏  
(埼玉県立近代美術  
館長)

美術を語る会

日時 6月20日(土)午後2時  
午後4時

話題 「明治洋画史料こぼ  
れ話」

話題提供者  
青木 茂氏

(跡見学園女子大学  
助教授)

# 昭和62年度 常設

## 收藏作品展Ⅰ期

4/1  
5/10

62年度事業案内 ①

### 展覧会事業

#### 特別展

「日本の名画一〇〇年」

会期 5月16日～6月21日

内容 別掲

#### 「ピカソ展」

会期 8月7日～9月6日

内容 詳細は第2号に掲載

#### 企画展

#### 常設收藏作品展

会期 I 4月1日～5月10日

II 6月30日～8月2日

III 9月12日～10月18日

IV 12月8日～3月31日

内容 I 別掲、他は次号以降

#### 第2回現代日本具象彫刻展

会期 8月7日～9月6日

内容 詳細は第2号に掲載

#### 青木滋芳展―房総の美術家シリーズ(17)

会期 9月12日～10月11日

内容 詳細は第3号に掲載

#### 第11回千葉県移動美術館

会期 ①印旛村中央公民館

10月29日～11月9日

②富津市富津公民館

11月12日～11月24日

優れた美術作品を広く県民に紹介するため2会場で開催する。

「京都高等工芸学校の庭」

「田植之図」

「参詣」

「図案画稿」他

会期中、一部展示替えをします。

鈴木啓子「F E E L I N G」

LOVE 白いポエジー」

○工芸

帖佐美行「香実と想鳥(集いの為の酒器セット)」

逸生「木画箱」

「対縞黒檀筆筒」

藤田喬平「飾宮・しだれ櫻」

津田信夫「花瓶」

大須賀喬「蝶文黒銅香炉」

昆虫文飾皿、三橋英作「象嵌花器(展)」

横山光ノ介「戦碑」

○書

中台邱園「盧綸詩」

第2部

浅井忠「藁屋根」

「農婦」

「老母像」

「印旛沼」

「平城大仏鐘楼」

「房州白浜」

「磐梯山の図」

「全州城壁上」

「フオンテンブローの森」

「奈良

辺阿以湖「牡丹」、稲木皓人

「更衣」、斎藤惇「五台山大白塔」

大田歳「北海」

「有明」、五十嵐幹「華」

○洋画

浅井忠「農家」、丸山晚霞

「長野水内風景」、小山周次

「ばら」

「甲斐牧丘」他、赤城泰舒

「山湖」

「赤屋根の村」、水野以文

「草花」、古賀春江

「風景」、富田通雄

「静かなる日」

「外房鶴原」、寺田政明

「船具」

「犬吠灯台の見える外川港」、篠崎輝夫

「敦煌」、五十嵐光昭

「涅槃の前で」、中村亮一郎

「窠」、羽生智樹

「動く気配の鳥」、鷹山宇一

「波涛の歌」

○彫刻

安西順一「毘沙門天像」、伊藤礼太郎

「夜叉神解脱」、

今年度收藏作品展第1期は

第1部新収蔵作品展、第2部

浅井忠展で構成しています。

第1部では、昨年度に収蔵

しました日本画、洋画、彫刻

工芸、書の商品の中から紹介

しています。

第2部では、佐倉藩出身の

明治期洋画界の巨匠、浅井忠

の画業を紹介しています。浅

井は我国最初の洋風美術団体

である明治美術会を創立、滞

欧時代にはフォンテンブロー

やグレーの自然を描いた名作

を生み、晩年は京都高等工芸

学校図案科教授、また関西美

術院長として、梅原龍三郎、

安井曾太郎ら多くの俊才を育

て、明治期の美術界に大きな

業績を残しました。今回は、

油彩、水彩、素描、図案、日

本画の作品を中心に展覧して

います。

### 主な展示作品

#### 第1部

○日本画

石井林響「唐獅子」

「山水図」

「舟遊図」

「嵐」

「寒山拾得」

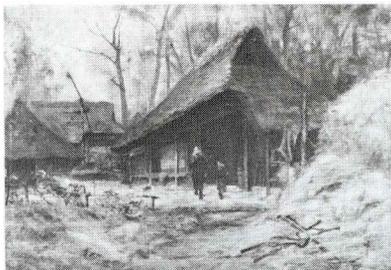
他、関主税「晨」、渡



小山周次「ばら」



大須賀喬「蝶文黒銅香炉」



浅井 忠「藁屋根」

新館長がいつか



私は、この四月の定期異動で館長として着任致しました。藤川昶(ひさし)でございます。

昭和四十九年の開館以来、既に十余年を経過した伝統ある美術館で、荣誉ある第五代目の館長として仕事をさせていただくことの光栄を深く感謝しております。同時に、この伝統を更に深め発展させて行くことの大きな責任もひしひしと感じるものです。

県立美術館には、房総(千葉県)関係美術作家の業績に関する資料の発掘・調査・研究のたゆみない蓄積、さらにはその成果として研究結果の発表・作品の展示・公開と、限り無い作業がございます。

一方、開かれた国際社会に参画する機関の一つであります公立美術館には、広く国際的視野に立って、過去・現在の未来にわたる美術の動向をみつめ、その研究の成果を、県民の皆様、広くは国際社会の皆様提供する責務もござい

ます。

ふりかえれば、開館以来の歴代館長及びそれを支える職員一同、県内外及び国際的な作家の展覧会の開催、美術界の動きのいち早い紹介に、日ごろ努力を積み重ねてきたところであると承っております。今後とも、この流れを、ますます豊かなものとして、二十一世紀へ向けての県立美術館運営に微力を尽して参りたいと存じます。

幸い、今年度は、関係各位、各機関の深甚なる御配慮により、展示棟等の増築も日程のほつております。完成の後には、県民皆様へのより充実したサービスも提供出来るものと確信致しております。

それにつけても、五百万県民の皆様の温かい御支援なしには、美術館運営の遂行は不可能でございます。皆様の御協力のほどを、館員共々心よりお願い申し上げます。

【略歴】

千葉県立中央図書館、千葉県教育庁文化課に勤務し、以後、千葉県立中央図書館副館長、千葉県議会図書館長、千葉県立中央図書館館長を歴任し、本年四月一日に現職に就任。

62年度事業案内 ②

かたる・つくる

普及事業

美術作品を見て、その感動をお互いに語り合い、楽しみながら鑑賞力を培うため、本館では、講演会・美術を語る会などを行い、美術をより深く理解できるよう努めている。さらに、情報資料室では、美術図書の開架や、美術に関する資料について、質問・相談に応じている。

また、県民アトリエの実技室では、自分できにか作品を完成させてみたいと思う人に、日本画、洋画、彫刻、工芸、書など各部門に多彩なコースを設定し、多くの方々につながる喜びが体得できるように努めている。

美術講演会

美術普及事業の一環として美術に関する理解を深める場として、特別展に関連させ、本年度は2回実施する。

- 期日 (1) 5月23日(土)
- (2) 8月29日(土)

美術を語る会

特別展・企画展・実技講座と関連させながら美術に関する一層の理解と関心を深める

(美術を語る会・実技講座等)

ため本年度は定期的に10回実施する。

期日	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
	6月20日(土)	7月11日(土)	8月22日(土)	9月5日(土)	10月3日(土)	11月21日(土)	12月12日(土)	12月19日(土)	1月23日(土)	2月13日(土)

実技講座

「みる・かたる・つくる」という本館の事業の一環として、本年度は、経験者を対象に美術館実技講座を実施する。また、美術館友の会主催の講座として、初心者を対象として入門講座を実施する。

○美術館実技講座

- 日本画(洋画)(3期)・デッサン(2期)・版画・彫刻・陶芸(2期)・書芸(3期)

○友の会実技講座

- 合計 7種、13期、16日
- 日本画(洋画)(3期)・デッサン(2期)・版画・彫刻・陶芸・金工・七宝焼・書芸・てん刻

- 合計 10種、13期、65日
- (各2日)7日間

ごあんない・団体展

- 第32回二科会千葉支部展 5月12日～5月17日
- 千葉二紀会展 5月12日～5月17日
- 第11回墨の泉展 5月19日～5月24日
- 第11回鳳聲会書作展 5月26日～5月31日
- 第10回千葉一陽展 5月26日～5月31日
- 第27回千葉市アマチュア美術展 5月26日～5月31日
- 第12回関東全展 5月26日～5月31日
- 第14回千虹会日本画展 6月2日～6月7日
- 第19回千葉市水墨画同好会連合展 6月9日～6月21日
- 新槐樹社千葉県支部展 6月23日～6月28日
- 第5回明日を拓く教育美術展 6月23日～6月28日
- 第2回日本画四季展 6月23日～7月5日
- 第10回精鋭展 6月23日～7月5日

62年度実技講座は装いを新たに美術館さらに友の会が各講座を開設します。  
**美術館実技講座**  
 経験者を対象に表現力・創作力さらに技術の向上をめざします。

- 陶芸講座(1)**  
 期日 5月7・9・26・28日、6月26日  
 講師 横山光ノ介氏  
 縮切 4月23日
- 洋画講座(1)**  
 期日 5月27・28・29・30日、6月2・3・4・5・9・10・11・12日  
 講師 伊牟田經正氏  
 縮切 5月13日
- 彫刻講座(木彫)**  
 期日 6月3・4・5・9日、10・11・12・17・18・19日  
 講師 久保田徹通氏  
 縮切 5月20日
- 書芸講座(1)**  
 期日 6月16・17・18・19日  
 講師 高木東扇氏

**ごあんない・実技講座**

- デッサン講座(1)**  
 期日 7月16・17・18・19日、23・24・25・26日  
 縮切 7月2日  
 ※美術館主催のデッサン講座は受講者の自主研修となります。
- 版画講座**  
 期日 7月25・26・28日、29・31日  
 8月1・2・4日、5・7・8日、9日  
 講師 篠崎輝夫氏  
 縮切 6月19日
- 書芸講座(2)**  
 期日 7月29・30日、8月1・2日  
 縮切 7月11日
- 洋画入門講座(2)**  
 期日 7月2・4・5・7  
 8・9日  
 講師 宮沢一雅氏  
 縮切 5月7日
- 日本画入門講座**  
 期日 5月14・15・16・17日、22・23・24日  
 縮切 4月30日
- 友の会実技講座**  
 初心者を対象に基礎的技法や用具の取り扱い方などを研修します。
- デッサン入門講座(1)**  
 期日 5月8・9・10日  
 講師 五十嵐光昭氏
- デッサン入門講座(2)**  
 期日 8月7・8・9日  
 講師 戸田健夫氏  
 縮切 7月24日
- 洋画入門講座(1)**  
 期日 7月2・4・5・7  
 8・9日
- 七宝焼入門講座**  
 期日 7月14・15日  
 講師 市川寿賀子氏  
 縮切 6月30日
- デッサン入門講座(2)**  
 期日 8月7・8・9日  
 講師 戸田健夫氏  
 縮切 7月24日

**美術講演会**

美術普及事業の一環として美術に関する理解の場を提供するため、美術講演会を開催する。第一回は、特別展「日本の名画一〇〇年」に伴い次のように企画されている。  
**「旧大光コレクションと日本の名画」**

講師 本間正義氏(埼玉県立近代美術館長)  
 会場 本館講座  
 日時 5月23日(土)午後2時～午後4時  
 対象 一般 200人  
 受講料 無料

**美術を語る会**

美術一般に関する問題をテーマとして行われる談話会「美術を語る会」の第一回は次のとおりである。  
**テーマ「明治洋画史料こぼれ話」**

話題提供者 青木茂氏(跡見学園女子大学助教授)  
 場所 本館研修室  
 日時 6月20日(土)午後2時～午後4時  
 対象 一般 50人  
 会費 無料

**日誌抄**

- 2・23 美術館友の会役員会
- 2・27 第二回美術館資料審査委員会
- 3・11 第三回美術館協議会
- 3・23 第二回防災訓練
- 4・1 辞令交付

**職員異動**

昭和62年3月31日付けで平野馨館長が退職し、4月1日付けで、次の職員が異動しました。

- ◆転出者
  - 林 康高 (主査↓八街高等学校事務長)
  - 飯村 洋子 (副主査↓中央図書館司書)
- ◆転入者
  - 藤川 昶 (中央図書館長↓館長)
  - 保科 昌弘 (施設課主幹↓副館長)
  - 森田 保 (文化課主査兼文化振興係長↓副館長)
  - 高石 卓 (財務課副主査↓庶務課長)